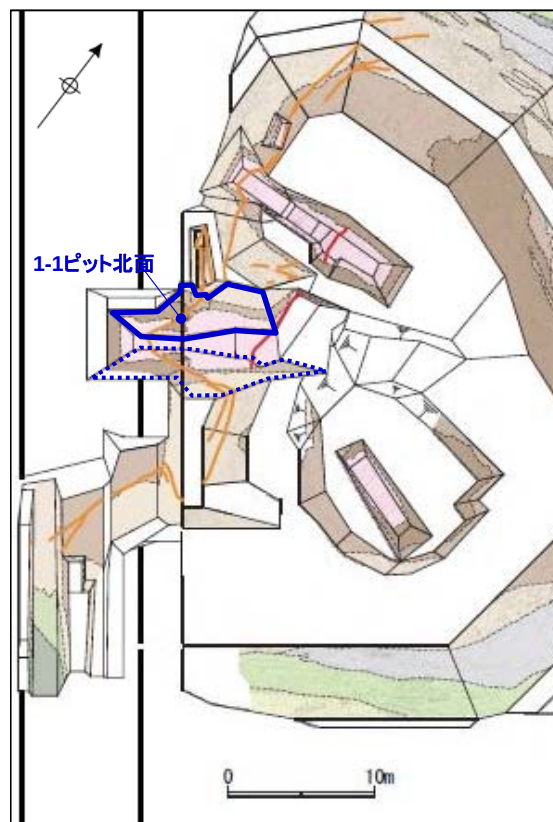


D-1トレンチ1-1ピット北面（K断層） 写真

H25.4.24以降得られたデータ

H25.7.11報告書を一部修正

158



WSW←

→ENE



D-1トレンチ1-1ピット北面（K断層） スケッチ

H25.4.24以降得られたデータ

H25.7.11報告書を一部修正

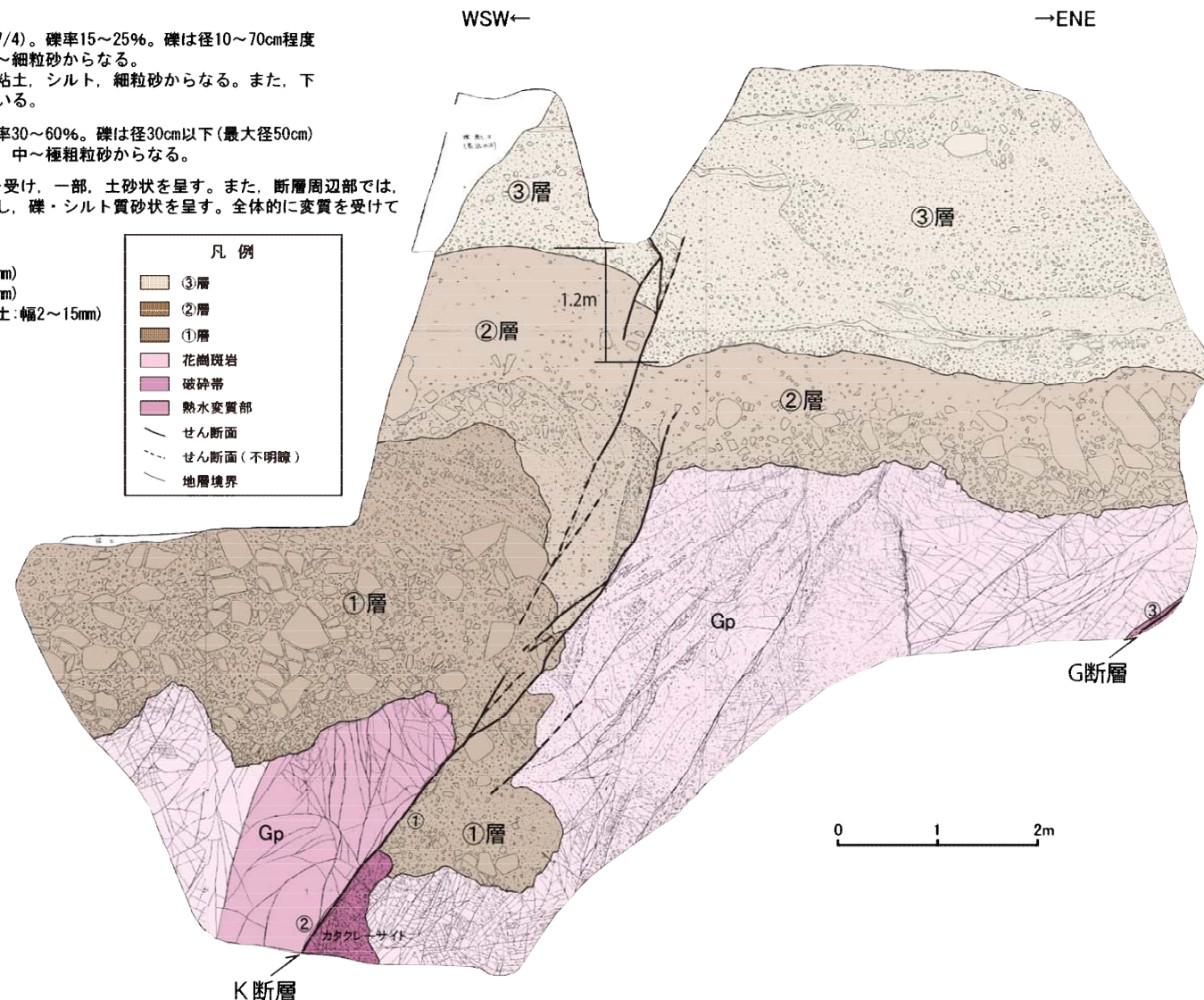
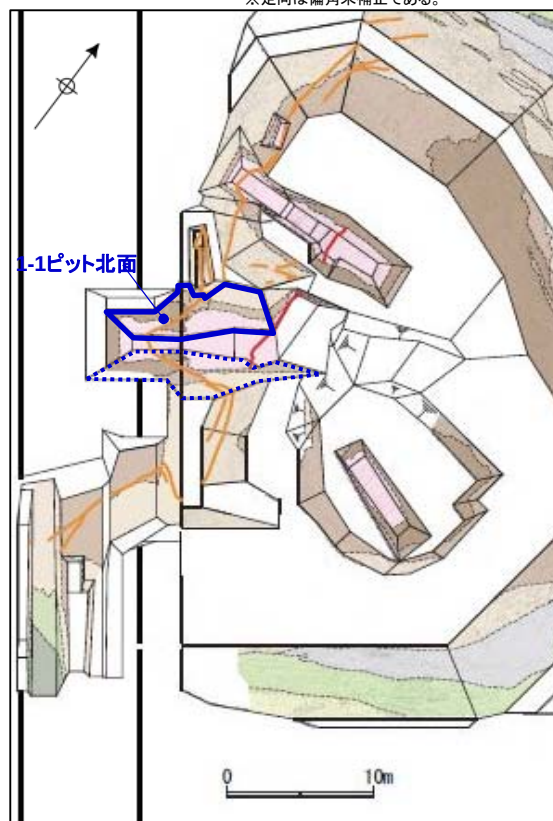
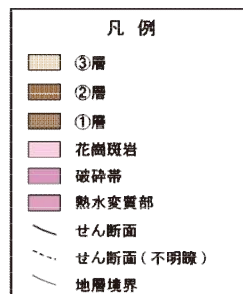
③層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率20~40%。礫は径10cm以下の亜角礫を含む。淘汰は良い。基質は、中~粗粒砂からなり、一部、細砂及びシルトからなり、細礫を含み、葉理が発達する。

②層:シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色(5YR7/4)。礫率15~25%。礫は径10~70cm程度の角~亜角礫を含む。基質は、シルト及び中~細粒砂からなる。上部には、礫砂混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部において、シルト質砂礫が分布している。

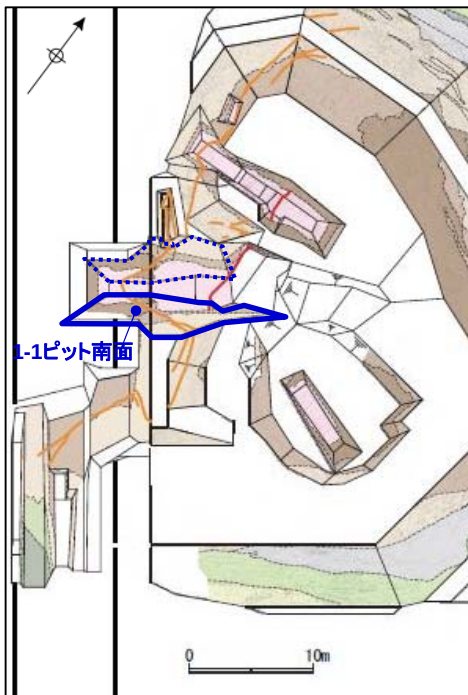
①層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR7/3)。礫率30~60%。礫は径30cm以下(最大径50cm)の亜角礫を含む。淘汰は極めて悪い。基質は、中~極粗粒砂からなる。

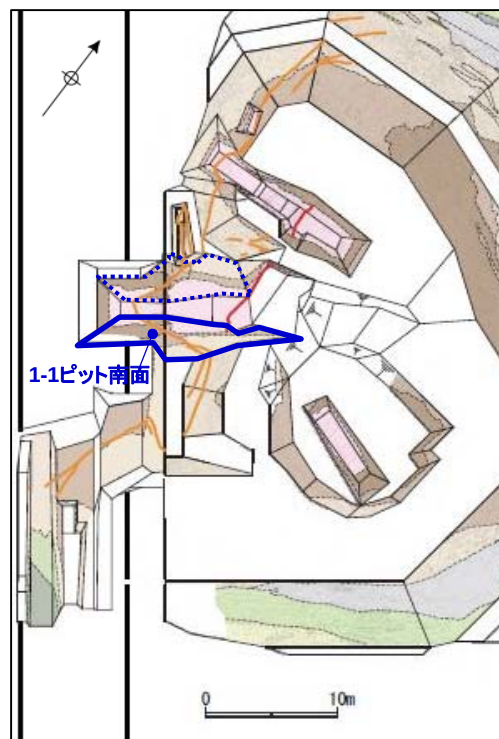
Gp:花崗斑岩:浅黄橙色(7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈す。また、断層周辺部では、花崗斑岩質カタクレーサイトが分布し、礫・シルト質砂状を呈す。全体的に変質を受けている。

- ①:f:N7° W64° W 断層ガウジ(灰褐色粘土:幅2~6mm)
 ②:f:N3° W61° W 断層ガウジ(灰褐色粘土:幅3~6mm)
 ③:f:N13° E65° W 断層ガウジ(橙色(7.5YR6/6)粘土:幅2~15mm)
 f:せん断面
 ※走向は偏角未補正である。



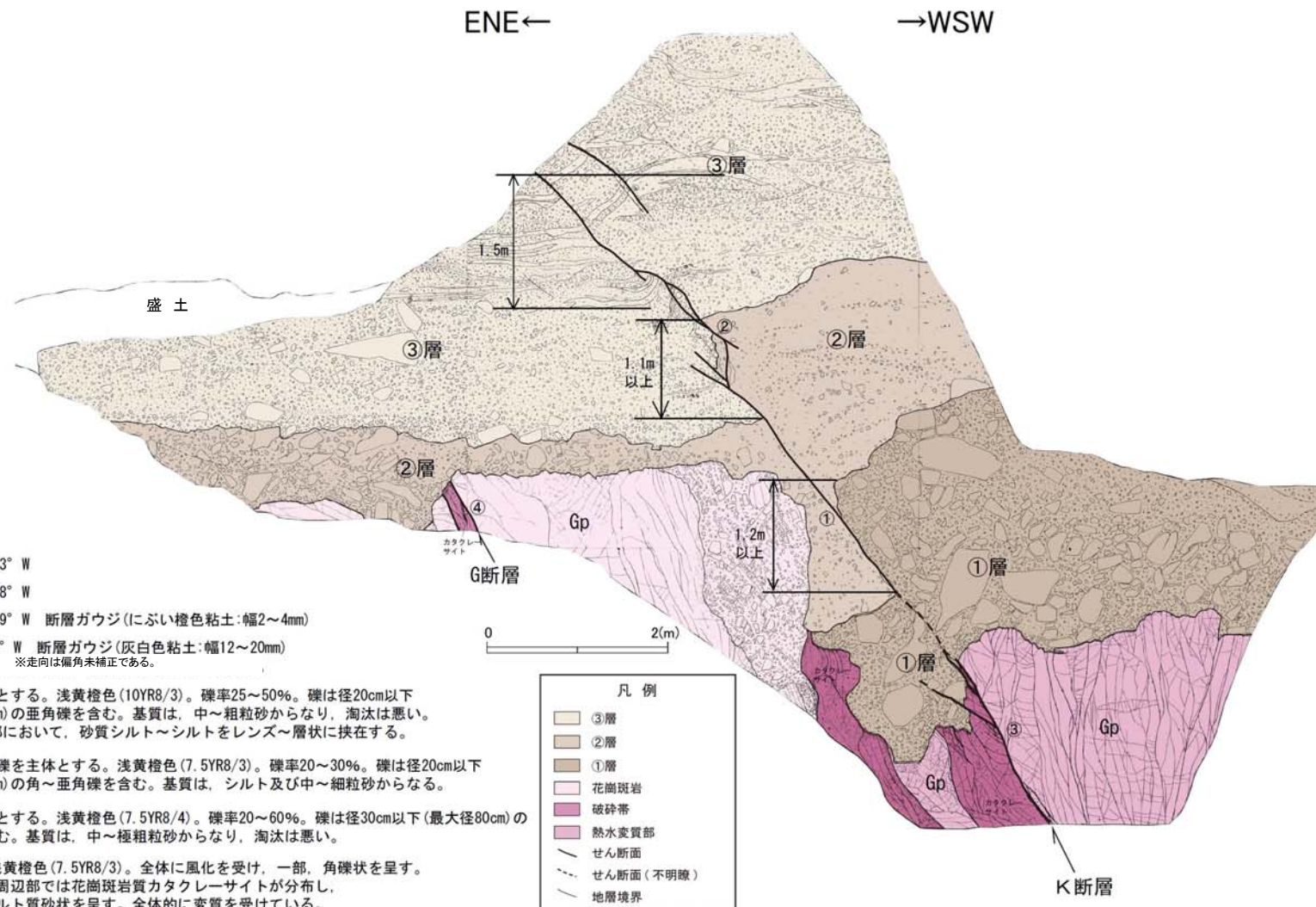
北面にはN-S方向、中角度西傾斜のK断層が分布する。
 ②層上面の見かけの鉛直変位量は約1.2mである。





- K断層 ①:f:N16° W53° W
 ②:f:N26° W48° W
 ③:f:N34° W69° W 断層ガウジ(にぶい橙色粘土:幅2~4mm)
 G断層 ④:f:N2° W62° W 断層ガウジ(灰白色粘土:幅12~20mm)
 f:せん断面 ※走向は偏角未補正である。

- ③層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(10YR8/3)。礫率25~50%。礫は径20cm以下(最大径70cm)の亜角礫を含む。基質は、中~粗粒砂からなり、淘汰は悪い。また、上部において、砂質シルト~シルトをレンズ~層状に挟在する。
- ②層:シルト質砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率20~30%。礫は径20cm以下(最大径40cm)の角~亜角礫を含む。基質は、シルト及び中~細粒砂からなる。
- ①層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/4)。礫率20~60%。礫は径30cm以下(最大径80cm)の亜角礫を含む。基質は、中~極粗粒砂からなり、淘汰は悪い。
- Gp:花崗斑岩:浅黄橙色(7.5YR8/3)。全体に風化を受け、一部、角礫状を呈す。また、断層周辺部では花崗斑岩質カクレーサイトが分布し、礫混じりシルト質砂状を呈す。全体的に変質を受けている。



南面にはNW-SE方向、中角度西傾斜のK断層が分布する。各層の見かけの鉛直変位量は①層で約1.2m以上、②層上面で約1.1m以上、③層内で約1.5mであり、累積性は認められない。

D-1トレンチ1-1ピット底盤（K断層） スケッチ及び写真

H25.4.24以降得られたデータ

H25.7.11報告書を一部修正

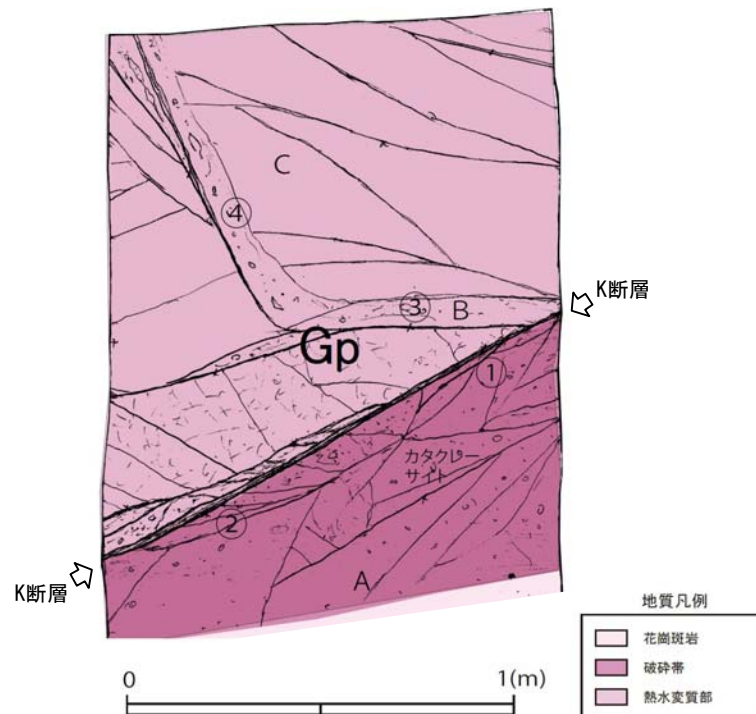
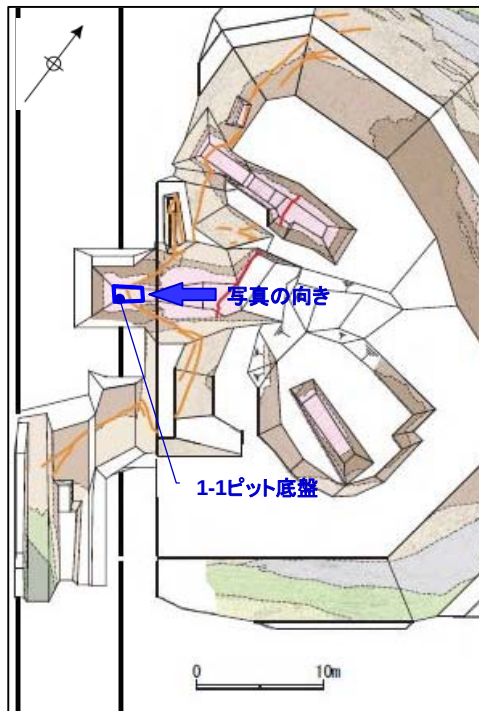
161

SE←

→NW

SE←

→NW

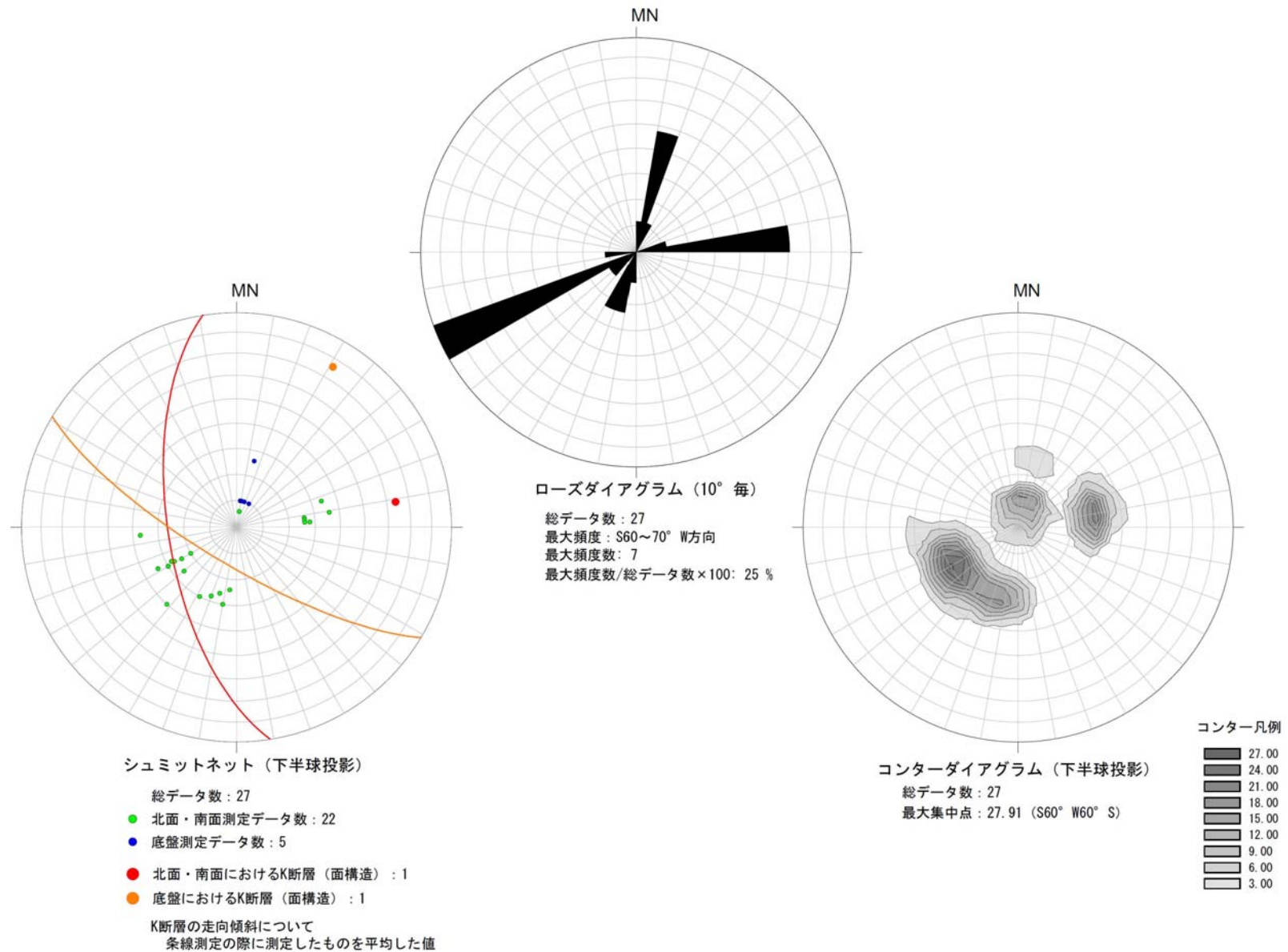


- ① f.N56° W/53° S 断層ガウジ (灰褐色粘土: 幅 3 ~ 6mm)
- ② f.N60° W/62° S 断層ガウジ (灰褐色粘土: 幅 3 ~ 5mm)
- ③ f.N47° W/74° S 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅 1 ~ 4mm)
- ④ f.N25° E/86° W

f: せん断面
※走向は偏角未補正である。

- A: 花崗斑岩質カタクリーサイト: 灰白色 (7.5YR8/2 ~ 10YR7/2)。礫混じりシルト質砂状。全体的に変質を受け、やや軟質である。
- B: 角礫状花崗斑岩: 灰白色 (7.5YR8/2)。全体的に変質を受け、やや軟質である。
- C: 花崗斑岩 (風化部): 橙～浅黄橙色 (7.5YR7/6 ~ 10YR8/3)。割れ目によって酸化。

底盤にはNW-SE方向、中角度西傾斜のK断層が分布する。



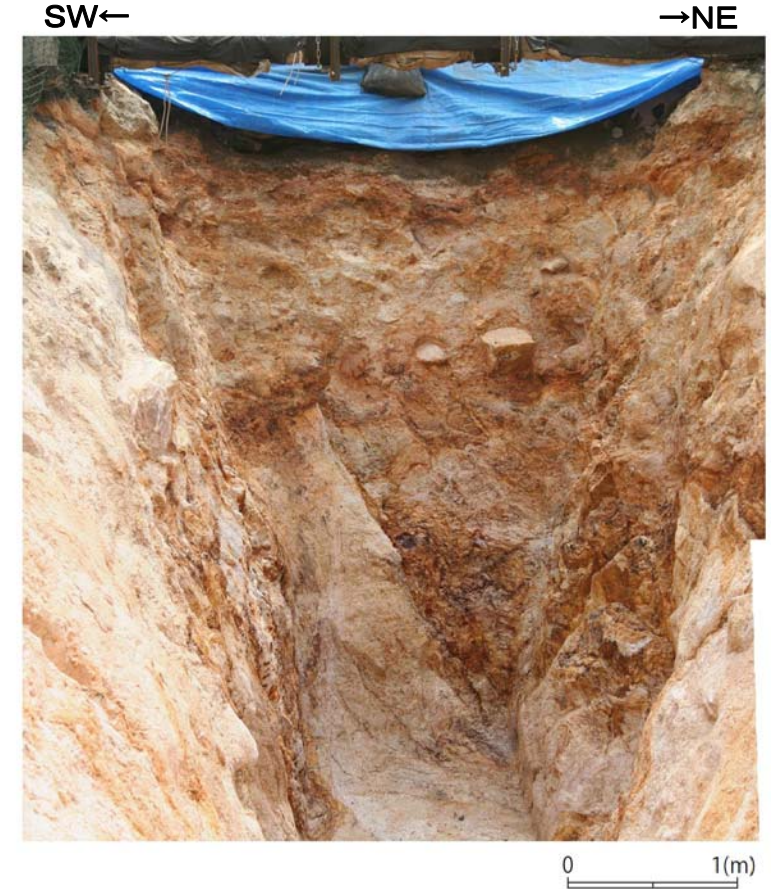
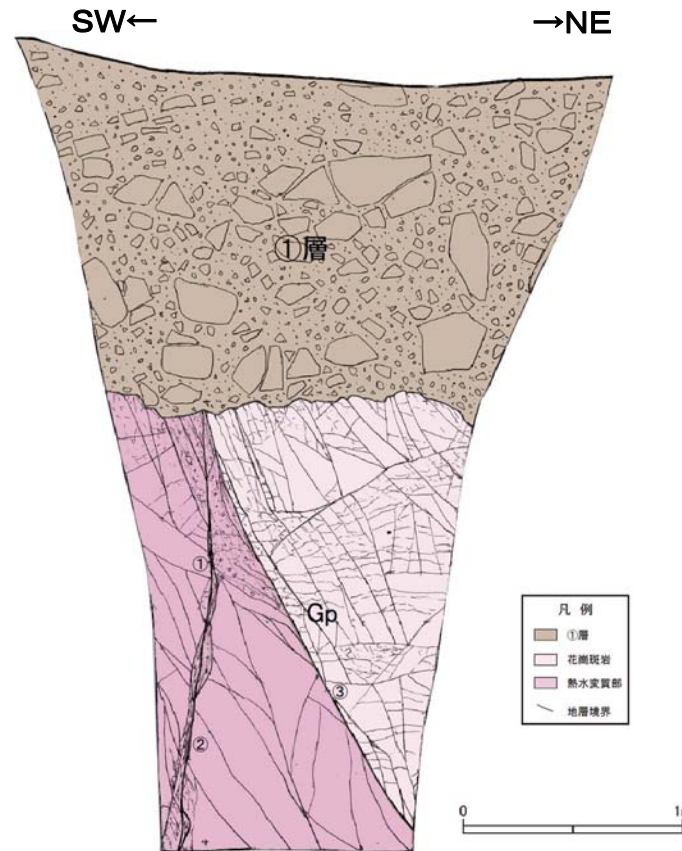
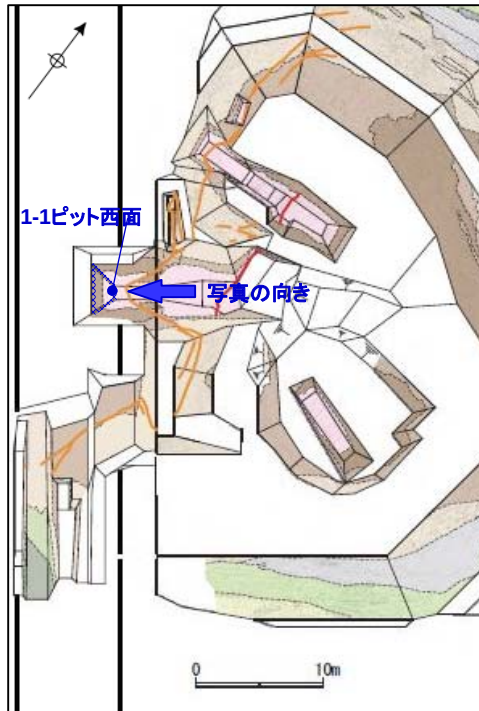
- ・K断層の最新活動面における条線は、S60° ~70° Wを示す縦ずれ成分が卓越。
- ・高角度を示すプランジが多い。

D-1トレンチ1-1ピット西面 スケッチ及び写真

H25.4.24以降得られたデータ

H25.7.11報告書の一部修正

163



①層: 砂礫からなる。浅黄橙色 (7.5YR8/3)。礫率30~50%。礫は径20~40cm程度の亜角礫を含む。基質は中~粗粒砂からなり、淘汰はかなり悪い。

Gp: 花崗斑岩: 浅黄橙色 (7.5YR8/3)。全体的に風化を受けている。

①: f: N23° E82° E 断層ガウジ (明黄灰色粘土: 幅1~3mm)

②: f: N29° E78° E 断層ガウジ (明黄灰色粘土: 幅1~6mm)

③: f: N17° E88° W 断層ガウジ (浅黄橙色粘土: 幅1~2mm)

f: せん断面

※走向は偏角未補正である。

基盤岩内には、熱水変質を伴うNNE-SSW方向、高角度東傾斜の破砕帯が認められるが、これを覆う①層に変位・変形は認められない。